

5 本時(1日目)の学習指導

【研究授業】

〔クイズ コース〕

(1) 目標

「宝物クイズ」を通して、「宝物を紹介する」というクイズの目的を再認識し、クイズのヒントを見直したり、宝物になったわけの組み込み方を考えたりすることができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識
<p>1 クイズ大会をする。</p> <p>2 教師のクイズに挑戦する。</p>	<p>「その物の特徴となる様子をヒントにしてくれているので、イメージが湧くよ。」</p> <p>「ヒントを出す順をうまく考えているのでなかなか難しいね。」</p> <p>「一つの物でもいろいろなところからヒントを考えることができるんだね。」</p> <p>「四角くて、布でできている物ってタオルのことだ。誰かのプレゼントかな。」</p> <p>「枕かな。でも、きれいにするときに使うんだからちがうな。」</p> <p>「雑巾が宝物なんておかしいよ。先生のは本当に宝物なの。」</p>
<p>宝物クイズにするために大切なことを考えよう。</p>	
<p>3 それまでの友達のクイズと教師のクイズを比べ、宝物クイズで大切なことは何かを話し合う。</p>	<p>「友達のクイズは、その物の特徴をうまくヒントにしてくれていたよ。大きさや形、使い方もヒントになっていたよ。」</p> <p>「金崎先生のは、どうかな。形や何でできているかも言ってくれたよ。使い方もあったし…。」</p> <p>「私たちの宝物紹介のヒントも、先生が拾った物のヒントも同じだね。これじゃ、宝物の紹介クイズと言えないな。」</p> <p>「宝物クイズなんだから、宝物だということが分かるようなクイズにしなくちゃいけなかったんだ。どうしたらいいのかな。」</p>
<p>4 クイズの後に質問されたことから、クイズのヒントの出し方や、宝物であることが分かるようにするための工夫の仕方を見付ける。</p>	<p>「ぼくの宝物は、木でできています。細長くて、先の方が少し太いです。スポーツをするときに使います。」</p> <p>「それは、誰が買ってくれたのですか。」 → 「野球の試合を見に行ったとき、お父さんが買ってくれました。」</p> <p>「どうして宝物になったのですか。」 → 「大好きな選手にサインをしてもらったからです。」</p> <p>「どこが気に入っているのかやどんな思い出があるのか、宝物になったわけが分かるようなクイズにするとよかったね。」</p> <p>「ぼくは、クイズのヒントの中にどんな思い出があるのかを入れてみよう。」</p> <p>「わたしは、宝物になったわけをはじめに話してからクイズを出すわ。」</p> <p>「ぼくはヒントに入れるのは難しいな。クイズの後から宝物になったわけを話すよ。」</p> <p>「おばあちゃんが私の誕生日のお祝いに、何日もかかって作ってくれました。」というヒントで宝物だということが分かるかな。</p>

**< 前時までの子どもの学びの様相 >**

子どもたちは、これまで「宝物紹介」において述べるべき視点についての学習をしている。本コースの子どもたちは、クイズのヒントを考えるために、様々な視点から自分の宝物の特徴を捉えたり、どの順にヒントを出すかについても工夫したりできている。しかし、「宝物」だということが分かるクイズにしなければならないという意識が薄れている。

支 援

支援  
子どもたちは前時までの学習で、いろいろな視点から物を捉えることを学んできている。そこで、子どもたちのクイズのヒントがどのような視点から考えているかが明らかになるように、形、色、大きさ等の項目を板書することによって、子どもたちが新しい視点や足りない視点はなかったかといった思考を促す。

- 子どもたちのクイズがどのような視点から出されているかを、板書をもとに確認しておく。

支援  
数名の子どもたちが、自分の宝物を紹介するためのクイズを出した後、教師からもクイズを出す。視点は、子どもたちと同様、ものの形や色、材質等であり、学習活動1で、子どもたちがヒントに出した視点と対比できるように板書していく。教師のクイズの答えが「雑巾」であることを伝えることで、宝物の紹介とはちがうのではないかという疑問をもつ。そこで、「廊下で拾った物」であることを伝える。「宝物」でも「拾った物」でも紹介の仕方が同じであることから、自分たちのクイズも宝物クイズだと変わらないことに気付かせる。そして、「宝物であることが伝えられるヒント」が必要なのではないかという子どもたちの考えを引き出す。「目的に合ったことを話す」という思考様式を繰り返し定着させる場とする。

つかい方	大きさ	形	色	もののようす
------	-----	---	---	--------

たからもの

つかい方	大きさ	形	ざいしつ	もののようす
------	-----	---	------	--------

ひろったもの

- どうすれば「宝物クイズ」のヒントになるのかを考えるに当たって、A児のクイズを取り上げる。考えていたヒントを出した後、他の子どもたちからの質問を受ける場を設定する。

支援  
「誰からもらったのですか。」「どうして宝物になったのですか。」「どのくらい大切なのですか。」「どんなところが気に入っているのですか。」等の質問が出る。質問されたことがらを板書に加えていくことで、何が足りなかったのか気付かせたい。また、それを付け加えていく方法についてもグループで相談する時間を設けるとともに、A児のクイズをもとに、全体で具体的に考える場をもつ。

【評価】 方法：クイズメモ  
B：宝物になったわけ等を一文でも書き加えることができる。  
A：宝物だということが分かるクイズに直したり、宝物になったわけ等を詳しく書き加えることができる。  
< 判断基準 B 例 >  
「大好きなおじいちゃんからもらったので、とても大切にしています。」  
< 判断基準 A 例 >  
「大好きなおじいちゃんの家遊びに行ったとき、おじいちゃんが一生懸命作ってくれた物です。」

- 違った方法で宝物だと分かるクイズにしている子どものクイズを発表させることで、もう一度自分のクイズを振り返り、思考様式を使いこなせているかを確認する。